

# 地下水で暮らす町



地下水を守ること

すなわちそれは

東川町を守ること



## 東川町とは

「写真の町」「水の豊かな町」と様々な顔を持つ東川町。人口は約8,600人、この30年間、地方の多くが人口減少に直面するなか、約2割も増加した希有なまち。北海道のほぼ中央、北海道第2の都市である旭川の東に位置し、町の東部は北海道最高峰の旭岳を有する、日本最大の自然公園「大雪山国立公園」の一部になっています。

町名の由来は、もともと「旭川」がアイヌ語で「チユクペツ」忠別「旭川（日が昇る川）」と言われており、その東に位置していたことから「東川」という地名が付き、現在に至ったそうです。

令和4年3月にゼロカーボンシティ宣言した東川町は、全国的にも珍しい、北海道では唯一の上水道の無い、地下水で暮らす町です。ここでは大雪山が育む良質な地下水を守るために東川町が行っている環境保全に関する取組について紹介していきます。



写真文化首都

## 地下水で暮らす



北海道では唯一、上水道の無い東川町は、大雪山の大自然の恵みによりこれを可能にしています。大雪山が蓄えた雪解け水が、長い年月をかけてゆっくりと地中深くにしみ込み、濾過され、細菌類の汚染がほとんどない安全な地下水となり、ゆっくりと東川町に運ばれていきます。東川町で暮らす人たちは、この地下水を細菌処理など一切せず、「生水のまま」飲用するなど、生活用水として使用しています。





今でこそ町の財産である地下水を守り、上水道の無い町を次世代につなぐ取組は、町民全体に浸透している。昭和の時代には、町全域に上水道を敷設するといった議論があったそうです。当時、町の南端を流れる忠別川では、洪水調節や発電、上水道など複数の機能を備えた多目的ダムが、工事が進んでいました。その際、上水道の敷設について町民アンケートを実施した結果、約8割の町民が「今、上水道は不要」と回答しました。この結果に加え、水質検査でも問題がなかったことから上水道は敷設しないこととなったそうです。

「源水が湧き出ているところが欲しい。松岡前町長からの特命を受けました。」と東川町職員の方が当時を振り返ってくれました。平成16年に東川町職員自らが源水を探し、発見した場所を「大雪旭岳源水公園」として整備しました。このカルシウムやマグネシウムなどのミネラルが豊富な硬水である大雪旭岳源水は、大雪山の自然が育む名水として知られており、平成20年には環境省「平成の

**大雪山の自然が育む名水  
大雪旭岳源水**



冒頭でも述べたとおり、東川町は北海道では唯一、上水道の無い町です。全国の水道事業者（大臣・都道府県知事認可の上水道事業者）及び水道用水供給事業者）における電力消費は年間73.3億kWhであり、

「源水が湧き出ているところが欲しい。松岡前町長からの特命を受けました。」と東川町職員の方が当時を振り返ってくれました。平成16年に東川町職員自らが源水を探し、発見した場所を「大雪旭岳源水公園」として整備しました。このカルシウムやマグネシウムなどのミネラルが豊富な硬水である大雪旭岳源水は、大雪山の自然が育む名水として知られており、平成20年には環境省「平成の名水百選」に選ばれ、全国にその名を轟かせることになりました。現在でも、連日、源水公園には町内外からたくさんの方がこの名水を求めにきています。その後平成24年に東川町は、大雪山旭岳の水資源を保全・活用するためにコープさっぽろ、JAひがしかわと共同で株式会社大雪水資源保全センターを設立し、ミネラルウォーターのボトルリング工場を建設しました。こうして「大雪旭岳源水」の名前でナチュラルミネラルウォーターの製造販売を開始し、道内外へ売り出したことにより東川町は水の豊かな町として更なる知名度を得ることになりました。

**美しい景観を守る**

日本全体の電力消費の0.8%を占めています（出典：厚労省HP「平成28年実績」）。上水道施設が無く、地下水で生活している東川町は、この環境を維持することで二酸化炭素の排出量削減に寄与しています。東川町では、恵まれた自然、豊かな水資源を守るため、大雪水資源保全セン



ターやふるさと納税などの寄附を※植林や※植樹等の森林整備活動に充てているほか、美しい東川の風景を守り、潤いのある生活空間をつくり豊かな自然と健康な心を育て、これからの世代へ引き継ぐことを目的として、平成14年に「美しい東川の風景を守り育てる条例」を定めました。





この条例では、美しい東川を「太古から続く大雪山の貴重な自然が残されたまち」「豊かな森林を背景とし活力ある農業が営まれるまち」「田園風景と調和する個性的な市街地が形成されるまち」「質の高い自然環境と生活環境が保たれるまち」「子供からお年寄りまでが風景づくりに参加しているまち」の5つの原則を満たすものとしており、町民、事業者、土地の所有者それぞれの責務を明らかにし、廃棄物の適正管理や開発事業、建築物の建設の適正化など様々な施策を実施しています。

※植林・木材生産として活用するために木を植えること  
※植樹・記念行事などで木を植えること

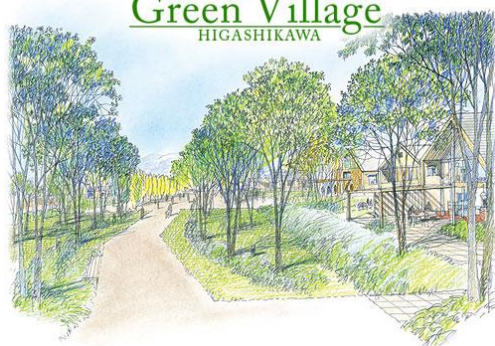
中でも、地下水の保全については、道内で海外資本による使途が不明な土地の売買が散見され、地下水の採取においても強い懸念がされたことから、町にとつて住民の貴重な財産である地下水の適正採取と汚染防止対策が急務となり、平成26年、条文に加わりました。事業者に向けては、有害物質の使用削減や地下工事による地下水への影響防止等努めるように、町民や土地所有者に向けては、雨水の保水能力が高い森林の保育管理に努める等、地下水の保全や節水について定められています。これらにより自らが東川の風景、自然を守っていくかなければならないといった環境保全に対する意識が醸成されています。

さらに、未来の東川町が美しく輝く町になることを目指し、平成18年に景観法に基づく景観計画を策定するとともに、自然景観と田畑や住宅などの文化景観を守り育てるため、「東川風住宅設計指針」を定め、同年、指針に基づいて宅地造成された「グリーンヴィレッジ東川」が分譲開始されました。

東川町の美しい景観と調和する住宅地を目指し、緑を多く配置することで自然環境にも配慮されたグリーンヴィレッジ。住民同士が

相互に協力し、安全で安心できる居住環境を形成し、緑豊かな住宅景観を守り育てていくために住民共通のルールとして「建築緑化協定」を定めています。緑化については、道路から見えやすい位置に2本以上の樹木を植えること、樹木や芝、草花等で敷地面積に対して緑地率20%以上を達成すること等と決められており、住民による積極的な緑化が進められています。

### Green Village HIGASHIKAWA



### 地下水を守るために

大自然がもたらす恵みである東川町の地下水。この水が全家庭にいきわたり、蛇口をひねればおいしい天然水が流れ出します。東川町

で暮らす人々は、これを当たり前とせず、「地下水で暮らす」ということの希少価値を一人ひとりが自覚しています。

また、町民との対話を目的としたタウンミーティングにおいて、ゼロカーボンの実現に向けて積極的な提言が出されるなど、地域一帯となつて環境保全に取り組んでいきます。「東川を良くしたい」という前向きな意見が多く、私たちがこの町を今の状態で残したいという思いがあるため、



役場だけでなく町民と助け合いながら一緒に東川を守っていきたい。」と東川町職員の皆さんは思いを話してくれました。

このような一人ひとりの意識や行動により守られ続けてきた豊かな水資源、地下水。そしてそれが、東川の自然や景観を守ることに繋がっています。

地下水を守ることで、それはすなわち東川そのものを守ることになるのです。

「水」×「日本酒」

地下水は、東川町の産業も支えています。天然の美味い水で育ったお米や野菜は格別であり、豆腐や味噌などの加工品、カフェなどの飲食店でも地下水の恩恵を受けています。そんな中でも特に注目を浴びているのが令和2年11月、全国でも数少ない公設民営型の酒造として、岐阜県中津川市から移転してきた老舗蔵元である「三千櫻（みちぎくら）酒造」です。ここで造られる日本酒には、地元のお米と水のみを原料としたものもあり、町の新たな特産品となっています。また、日本酒造りの過程で出た酒粕は農家に無償で提供し、肥料として田んぼに播かれます。こうして、米から酒へ・酒から米へと『循環型の農業と酒造り』を創出しています。

この「三千櫻酒造」にて、杜氏も兼ねている山田代表取締役にお話を伺いました。



Special Interview

三千櫻酒造株式会社

代表取締役・杜氏

やまだ こうじ  
山田 耕司



移転の理由、東川町の良さについて

米と水がたっぷりある環境は素晴らしいです。とにかく水が豊富に使えること、その水がミネラル豊富であり、お酒造りにとってはとても有利に働いています。

移転して3年、ここまでで苦勞した点について

環境にも恵まれ、公設民営型という日本酒業界では珍しい取組だったため、世間の注目度が非常に高く、苦勞せずここまでこれた印象です。

水と日本酒について

お酒の8割は水であるため、水はとても大事です。東川の水はお酒と相性が良い中硬水であるため、仕込むにはとても良いです。

今後の課題について

ありがたいことに取り扱って、居酒屋も東川だけだけでなく、旭川、札幌と増えてきているため、想定を超えて売れており、今後生産量を増やしていくことが課題です。

注目情報

「大雪旭岳源水」

大雪山の自然がつくりあげる銘水とも知られ、飲料水中に含まれる成分がカルシウム22mg/L、マグネシウム9mg/Lと理想的なミネラル比率（2：1）になっています。

大雪の山々が磨き上げた自然な水の味わいを損なわないよう、加熱殺菌処理をしないUF膜ろ過方式を採用し、自然な味わいにこだわったおいしく安全なナチュラルミネラルウォーターとなっています。

※ 1μm(マイクロメートル)から2nm(ナノメートル)の粒子や高分子が浸透するのを阻害する水処理膜の一種。



「三千櫻酒造」

住所 上川郡東川町西2号北23番地  
電話 0166-82-6631

明治10年に創業し、岐阜県中津川市で143年の歴史を歩み、令和2年11月、東川町公設酒蔵として新たなスタートを切った三千櫻酒造。

中津川時代から愛され続けている「愛山」を始め、JAひがしかわの有志が三千櫻のために初めて作った酒米を使用した「彗星」、「きたしずく」など様々な日本酒を製造・販売しています。

